

吉野材を用いた最高品質の無垢材製造を目指して

株式会社櫻井 奈良県吉野郡吉野町

株式会社櫻井は、吉野町に本社を置く木材メーカーで、構造用集成材や減圧乾燥無垢材などの製造を手掛けており、日本全国に良質な木材を届けている。

同社は仕入先や販売先をはじめとしたステークホルダーとの信頼関係を大切にしながら成長を続け、2023年9月に創業50周年の節目を迎えた。

また、地元である吉野の町と共に発展していきたいという強い思いから、2015年に吉野材を用いた減圧乾燥無垢材「よし坊」の製造を開始し、2022年4月、奈良県内の民間事業者として初めて無垢材での機械等級JAS（日本農林規格）認証を取得した。

同社は、これからも良質な木材の提供を通じて、日本の木造建築物の発展や吉野の町の活性化に尽力していく。

会社概要



会社名：株式会社櫻井
所在地：奈良県吉野郡吉野町丹治 15-1
電話：0746-32-0563
FAX：0746-32-8502
創業：1973（昭和48）年9月
設立：2000（平成12）年7月
代表者：代表取締役社長 櫻井 信孝
資本金：4,500万円
従業員：115名
事業内容：木材製造業（集成材・無垢材）
URL：<https://www.marushou-sakurai.co.jp/>

大きな転機となった五條工場の設立

株式会社櫻井は、現会長である櫻井昭三氏が1973年に個人事業として創業し、2000年7月に法人化。現在は2代目である櫻井信孝氏が経営を担い、2023年9月に創業50周年を迎えた。

同社は、海外材を用いた集成材を主に製造しており、吉野町という大阪に比較的近い立地で、仕入における輸送コストが低かったことも功を奏し、順調に業績を伸ばしていった。

その後、2011年4月にテクノパーク・ならに五條工場を構えたことが同社の大きな転機となった。同工場では専務の櫻井憲二氏が旗を振り、当時の最先端設備を導入し、生産の効率化を徹底的に追求した。受注に応じて24時間稼働が可能な体制をも構築し、最大で月産約6,000m³の生産量を誇り、同社の売上増強に大きく寄与している。

また、効率化を図る上で発生した課題に対しては、作業工程を都度見直す等によって、日に何百回とある作業を0.5秒ずつ短縮化していくなど、漠然とした改善ではなく、具体的な数値を根拠に解決していくことを心掛けている。

「納期や品質に嘘をつかず、当たり前のことを当たり前に行い、自社製品にプライドを持って生産・出荷する。需要あつての工場であり、顧客の要望には柔軟に対応していきたい」と話す専務の視線は、同工場のより一層の発展に向けられている。



テクノパーク・ならにある五條工場

集成材／無垢材



無垢材の表記も入っている同社ロゴ

減圧乾燥無垢材「よし坊」の誕生

吉野の本社工場でも 2015 年から吉野材を用いた減圧乾燥無垢材「よし坊」の製造という新たな挑戦に乗り出した。

無垢材は集成材と異なり、1 本の木から切り出され、他の素材を貼ったり塗ったりといった加工をしないため、木そのものの美しい木目や目の詰まった年輪、色つやなどが優れているという特長がある。一方で生産コストが高く、乾燥させることが難しいという不利な面もある。

特に吉野材として有名な杉は含水率が高く、心材部と辺材部の含水率の差が大きいため、乾燥させることが困難な材質である。また、無垢材は色つやが重視されるため、ただ乾燥させればよいというわけではなく、色つやを保ったまま乾燥させる技術が求められる。乾燥の難しい吉野杉を通常の手法で乾燥させると表面が焦げた色合いとなり、見た目が重視される無垢材としては利用価値が下がるが、色つやを残そうとすると乾燥が足りず強度の不足した製品となる。そこで同社は減圧乾燥機を導入し、乾燥機内の圧力を下げて沸点を低くすることによって、より低温での乾燥を可能にした。



(上) 減圧乾燥機と同社無垢材
(左) 減圧乾燥無垢材「よし坊」のキャラクター



乾燥機の操作プログラムの研究開発や実際の乾燥作業など、減圧乾燥無垢材の製造には多大な労力を伴うが、吉野材の魅力を広めていきたいという強い思いから、最高品質を追求するために試行錯誤を重ねながら、不断的努力を続けている。こうした努力が実を結び、2022 年 4 月、一般的に無垢材での取得は難しいとされる機械等級 JAS

認証を奈良県内の民間事業者として初めて取得した。機械等級 JAS 認証という公的な品質保証を得たことで、取引先からも同社製の無垢材はその風合いを残しながら安心して使用できると好評を得ており、まだ発展途上ではあるが、順調に販売実績を伸ばしている。

吉野と共に生きる

同社は、吉野の町と共に発展していきたいという強い思いを持っており、吉野に住まう人々や取引先、自社の従業員など、ステークホルダーとの関係性を大切にしている。取引先とは、長く取引を続けられることを前提とし、相互にメリットのある取引になるよう心掛け、従業員との関係性を良好なものとするため、社長室を設けず、積極的にコミュニケーションを図るといった取り組みで顧客と従業員の双方から信頼を勝ち取っている。

また、創業者でもある同社会長の櫻井昭三氏は「現場の若い世代に安心感を持って働いてもらい、今後の時代を引っ張ってもらうために、吉野の山と共存し、きれいな町づくりをしていきたい」と話し、その思いは社長の櫻井信孝氏にもしっかりと受け継がれている。



「よし坊」を使用した津風呂湖カヌー場
(大会の会場としても利用されている)

「木材の製造・販売を手掛ける我々の頑張りが、吉野の山を守ることにつながり、これからも山や町と共に成長していきたい。吉野材を使用している旅館などに宿泊した観光客などにもその良さに触れてもらい、世界中に吉野材の魅力を広めていきたい」と話す社長の目には強い思いが込められていた。
(藤岡奨太、大橋 徹)